

京都の産地は
四方を神さまに守られた土地

風水において都市を築くのに好適とされる地勢や地相のことを「四神相応」と言います。北に丘陵、東に流水、南に湖・沼、西に大道があるのが理想とされており、京都では船岡山（北）、鴨川（東）、巨椋池（南）、山陰道（西）がそれに当たります。それぞれの方角は玄武（北）・青龍（東）・朱雀（南）・白虎（西）という霊獣が守護してくださるのだと信じられています。こうした四神相応の思想にちなみ、中央の平安神宮を加えて京都を守護する五つのお社をめぐるのが「五社めぐり」です。五社を巡る順番は特に決まっておらず、最初にお参りした神社で「五社めぐり色紙」をいただき、それぞれの神社で朱印を集めます。



西方を守護する霊獣であり、象徴する色は白色。秋を司る神さまとも言われています。



北方を守護する霊獣であり、象徴する色は黒色。冬を司る神さまとも言われています。



南方を守護する霊獣であり、象徴する色は赤(朱)色。夏を司る神さまとも言われています。



東方を守護する霊獣であり、象徴する色は青(または緑)色。春を司る神さまとも言われています。



元々は中国の神さまで仏教を守護する神さまとされていましたが、福德を授けてくださる神さまとして信仰を集めています。



中国に伝わる長寿神で、南極星の化身ともされる神さまです。お名前には幸福・高禄(身分)・長寿の三徳の意味が込められているそうです。



七福神で唯一の女神さまです。元々はインドにおける水の神さまとされていましたが、言語や音楽の神さまとしても崇敬を集めています。



中国の神さまが日本に伝わったもので、長寿の象徴とされる鹿を従えたお姿で知られています。長寿や諸病平癒の功德があるとされています。



元々は財宝の守護神として信仰を集めたインドの神さまです。仏教においては、北方を守護する神さまとも知られています。



中国に実在したとされる仏僧であり弥勒菩薩の化身とも言われる神さま。夫婦円満や子宝の神さまとして信仰されています。



海上・漁業、商売繁盛などの神として信仰されています。七福神に数えられる神さまなかでは唯一の、日本古来の神さまです。



宝船には新たな旅立ちや人生の出発などを祝う意味が込められているとされています。1月1日に枕の下にこの絵を入れて寝ると幸運がもたらされると言われます。

1月には7つのお僧侶にちなみ、お七福神さまを色紙にのせて、お七福神さまの御朱印を集めよう
京都発祥の「七福神めぐり」

七福神とは、人々にさまざまな福德をもたらす神さまとして信仰を集める神さまのことで、民衆の間で広まり、徐々に形を成していったものです。ゑびす神だけが日本古来の神様。大黒天、毘沙門天、弁財天はインドの神様。福祿寿神、老寿神、布袋尊は中国の神様です。正月一日の夜、宝船に乗った七福神の絵を枕の下に入れて寝ると幸運がもたらされるという言い伝えが信じられており、京都では七福神を祀る社寺を参詣する「都七福神まいり」が盛んに行われてきました。参拝する順序などは特に定まっておらず、最初に訪れた場所で専用の色紙をいただき、社寺を巡り朱印を集めます。